

~工務店とは~

文：山田加容子

弊社の社員大工は、最年少21歳をはじめとし、最年長46歳と比較的平均年齢も29歳と「若さ」も売りです。たいてい現場で大工を紹介すると「えー若い大工さんやな!」と感嘆して頂けます。無くなりつつある「大工」を継承していくのも、本当に難しくなってきました。いかに安定した報酬がもらえるか、割に見合う報酬...と先に立つのはお金の事ばかりで、もの造りに興味のある若者が激減している気がします。「純粋な創作意力」だけでは生きていけないのも無理もないのですが...。

この先、家を建てる「大工ロボット」なるものが開発されたとして、最後の微妙な仕上げだけは人間の手によって完成してほしいものです。

どうかその先の未来に「大工」がいますように...。



暮らしのコラム

はじめよう！地震対策

日本は世界に比べて地震が発生しやすい地域。南海トラフ地震や首都直下地震など近い未来に発生する可能性のある巨大地震についての予測もあり、今のうちに地震対策をしておくことがとても重要です。今回は自宅で取り組んでおくべき対策と、確認ボイントをご紹介します。

自宅で必ずやるべき地震対策

①家具・家電の配置の見直しと固定

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などでは、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになつて亡くなつたり、大きがをしました。大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考えて、転倒防止対策を講じておく必要があります。

・家具が転倒しないよう、家具は壁に固定しましょう

・寝室や子ども部屋には、できるだけ家具を置かないようにしましょう。置く場合も、なるべく背の低い家具にするとともに、倒れた時に出入り口をふさいだりしないよう、家具の向きや配置を工夫しましょう

・手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを備えておきましょう

②生活必需品の備蓄

平常時に生活必需品を備蓄しましょう。家族の人数に合わせ、最低3日分が必要です。地震の規模が大きければ復旧に時間がかかるので、1週間ほどの備蓄を用意しておくのが理想です。備蓄用として保存食を準備しておくことも大切ですが、普段から使っているものを少し多めに買うようにし、1つ使つたら1つ補充するというように備蓄を普段の生活に取り込むようにしましょう。賞味期限切れを防ぐことができ、災害時には、普段から食べているものが食卓に並ぶことから、安心して食事をとることができます。

③非常用持ち出しバッグの準備

自宅が被災したときは、安全な場所に避難し避難生活を送ることになります。生活に必要なものを詰めたリュックサックなどを準備しましょう。人によつて必要なものは異なります。乳幼児が一緒の場合は、ミルク・紙おむつ・哺乳びん・消毒液なども必要です。一度、必要なものをリストアップしてみましょう。また、定期的に中身を確認し、見直すことも大切です。

④安否確認方法を決めておく

家族がそれぞれ別々の場所にいるときに、災害が発生したときには、お互いの安否を確認できるように、日頃から安否確認の方法や集合場所などを家族で話し合っておきましょう。万が一の安心・安全は、一人一人の防災・減災への意識から生まれます。地震の瞬間は何もできないものと考えておきましょう。揺れた時に何もしなくても防災・減災が成り立つよう日頃から身の回りの整理をし、安全な空間をつくつておくことがより大切です。